



ジャワ島中部にある仏教遺跡「ボロブドゥール寺院」を岡本の解釈で描いた大作。その上層には大乘仏教教典「華嚴経」に収録されたスダナ（善財童子）が悟りを求めて旅をする物語『入法界品（にゅうほっかいぽん）』、下層には古代インドの仏教説話である『ジャータカ物語』、そして地上部分には地獄の層が緻密に描き込まれています。

実際に現地の遺跡にレリーフとして残されている内容だけではなく、滞在中に見聞きした事柄や、類似する日本の説話、歴史的事象などが随所に盛り込まれています。

The new piece “Borobudur,” which is a mighty painting in which she presents her own interpretation of the remains of the Buddhist temple of Borobudur in Central Java. The upper layer of the painting is dedicated to the tale “Gandavyuha” in the Mahayana Buddhist *Avatamsaka Sutra*, telling the story of Sudhana and his journey in search of Nirvana, while the lower layer illustrates the Jataka tales, an ancient Indian Buddhist narration. Finally, the overground part contains detailed depictions of hell. Not only incorporating contents from reliefs that are preserved in the actual remains of Borobudur, but also a variety of things that Okamoto has seen and heard about during her journey, as well as similar stories from Japan, and historical events, this is one work that eloquently communicates the artist's own views and ideas.

ボロブドゥール部分解説

本画のボロブドゥールは、実際の遺跡と同様に全九層から成る。

第一層：地獄

オリジナルのボロブドゥールの一層目レリーフの一部に人間の悪事を描いたものがあることにちなみ、本画では現世の暴力を描く。

第二層：ジャータカ（本生譚）

釈迦の前世の転生譚を描く。

第三～五層：華嚴経入法界品

文殊菩薩の勤めによって善知識を訪ねる旅に出たスダナ（善財童子）の物語を描く。

第六～九層：生物の一生

実際のボロブドゥール遺跡の上層は、一部を除いて具象的な造形の一切ない幾何学的な立体曼陀羅を構成しており、最頂点へ向かうにつれてその抽象性は増していく。本画では、生まれてから死を経て地球を対流するエネルギーになるまでの、人間と動物の一生を描く。

各場面の解説

第一層：地獄

- 災禍と子供たち
- アジア各地の慰安婦たち

連合軍の撮影による、朝鮮半島で発見された慰安婦たちの写真を反転させたものに基づく。頭に布を掛けていない二人の人物は、様々な活動でその存在を広く知られている韓国とオランダの元慰安婦を表し、布を掛けている人物は、日本人にあまり意識されることのないインドネシアなどアジアの他地域の元慰安婦の女性たちを表す。左端の着物の人物は日本人慰安婦。彼女たちの存在もまた、広く知られてはいないのではなかるうか。

- アヒル

真偽の程は不明だが、小学生の頃担任の先生がいじめをめぐって、「アヒルと一緒に飼われている群れのなかで最も弱いものの首を水に沈めて殺すことがある。そうして最も弱いものを殺すと、次に弱いものを見つけ出して、また同じようにいじめ始める」と話した。

- 泥酔、または昏睡状態にさせられた女性をレイプするべく運ぶ男性と、それを傍観して通り過ぎる人。

- 馬頭

地獄の刑吏。手に持つのはペチュッと呼ばれる、ジャティランやジャラナンなどのジャワ伝統舞踊で人間に取り憑いた霊を制御するのに用いられる鞭。振るうと空気を裂くような、爆竹に似た音がする。

- ぬいぐるみを奪い合う子供

- ワニの闘争

- 子供の股を裂くチンパンジー

人間が争う根源的な理由を考えるとと思い出す場面。

- 原爆の被爆者

- 燃える木を眺めるオランウータンと、そこから走ってくる憤怒の相のゾウ

オランウータンの暮らす熱帯雨林は年々木材をとるための商業伐採

や放火によって開墾され、ヤシ畑などの農地にされているという。そうして生産された材木はコンクリートの型枠、植物油はインスタント麺の生産などに用いられており、私たち日本人の生活にも深く根付いている。人間によって生息域を狭められたゾウが人里に現れて暴れたというニュースもよく耳にする。

- 広島で被爆した米兵

米軍によって落とされた原爆によって被爆した米兵は、明らかになっているだけでも13人ほどいるという。しかし米政府は核兵器所持を正当化するため、1983年まで米国民の被爆者はいないとの見解を示していた。

- 空襲の被害者

- スマホでSNSを見る人

- 地獄の様子を見ながら会話をする釈迦と牛頭

- インドネシア人に暴力を振るう日本人憲兵

Lee Man Fong《Praktek Penjikusaan oleh Tentara Jepang（日本兵による拷問）》1945（OHD 美術館蔵）に基づく。

- 争う動物

- 脚の弱い人を助ける人

困っている人を見たらごく自然に手を差し伸べるインドネシアの人々の印象から。

第二層：ジャータカ

- 水牛の目を塞ぐ猿

猿からどんないたずらをされても忍耐強い水牛は、前世の釈迦であった。猿はこの後同様のいたずらを別の水牛に対して行い、角で突き殺される。

- 我が身を食糧として仙人に捧げる兎

バラモンに化身した帝釈天にお布施をするため、森の四賢者と称される山犬、カワウソ、猿、兎が供え物を探しに行く。山犬、カワウソ、猿は各々肉や魚、果物を見つけて戻ってくるが、兎はなにも見つけることができなかった。そこでバラモンに火を起こすよう頼むと、我が身を食してくれるようお願い、火中に飛び込んだ。ジャータカ原典では、帝釈天の神通力によって灯された炎が兎の身を焼くことなく、兎の行いに感心した帝釈天が月に兎の姿を刻むのみである。一方で、私の記憶には兎が実際に身を焼かれる手塚治虫の『ブッダ』の悲劇的な一場面が強く刻まれているため、ここではそちらを描画した。

- しゃしんしこず 捨身飼虎

玉虫厨子に描かれていることで知られる説話。空腹のあまり我が子を喰らわんとする母虎を見た王子が、身投げによって自らの肉体を虎に与える。王子は釈迦の前身であった。

- 空腹のオオカミの前に現れた羊

豪雨で獲物のないオオカミは断食決行を思いつくが、目の前に羊が現れるや、断食をやめて狩りを始める。しかし羊が逃げ去ったため、再び断食を始めることにする。すると天から声が響き、都合に応じて断食を始めたりやめたりするオオカミをたしなめた。羊は帝釈天の化身であり、釈迦の前身であった。

- 我が身を橋にして燃える木から子猿を逃がす母猿

- 雪山童子

対話する釈迦の前身である雪山童子と、帝釈天の化身である羅刹。

ここにおける羅刹のモデルはジャワのワヤン（影絵芝居）に登場するプトロ・コロ。シヴァの落とし子で人を喰らう鬼だが、人間を教え諭し、警告を与える神めいたところがある。

- 獅子の口に飛び込む鳥

本来はライオンの喉に引っかかった骨を取り除く釈迦の前身たるキツツキの話だが、ボロブドゥールのレリーフを見て勘違いし、捨身飼虎的な絵にしてしまった。

- 鹿の王ニグロード

王の狩猟の獲物になる番が回ってきた身重の牝鹿に代わって、我が身を射よう進み出る鹿の王。

- 象に乗って門をくぐり、生まれ変わる魂

第三層：華嚴経入法界品（にゅうほっかいぼん）第一層

27. スダナ（善財童子）と文殊菩薩。文殊菩薩の説法に感銘を受けたスダナは、菩薩から善知識を巡ることを勧められ、菩薩との別れを惜しみながらも旅に出る。ボロブドゥールのレリーフでは、原典に従い十代後半の青年として描かれているが、本作では快慶の《善財童子立像》など東アジアの仏教美術にみられるように、子供の姿で描いた。

- スグリーヴァ山のメーガシュリー。

- サーガムラヤのサーガラメーガーが眺める海から現れる大蓮華。

- ランカー島のスプラティシュティタ。天空を散歩する。

- ヴァジュラブラのメーガ仙人。スダナに高価な布を掛けて祝福する。

32. 複数の瓶の蓋を釘で木っ端に打ち付けた簡素な楽器を鳴らしながら家々の戸口で歌い、お金を集める少女。ジョグジャカルタ滞在中、時折こうした人たちの訪問を受けることがあった。喜捨の習慣のあるムスリムであることもあろうが、みな無碍にすることなくお金や水を差しだす。

- キンナラまたはキンナリ。

- ガルード。

35. インドリエーシュヴァラ童子。童子に囲まれて砂遊びをする。36. サムドラブラティスターナのブラブーター優婆夷。敵意をなくす香りを街中に漂わせる思春期の清楚な少女。壺から食物などを取り出し、人間のみならず龍や神々をも満腹させる。

37. アナラ王。人々を的確に裁く若々しい美男子。その処刑場には罪人たちの凄惨な死骸が山と積まれているが、アナラ王曰くこれらは彼が神通力で見せている幻影であり、彼は人々にこの有様を見せることによって正しく暮らしてほしいのだという。

- 第四層に上がるスダナ。

第四層：華嚴経入法界品第二層

39. マハープラバ王。動物からも植物からも礼拝され、水は王に向けて激流を発する。

40. ウトパラブーティ香料商。原典では香料で人の心を良くしたり、軌跡を起こす善知識だが、ここではジャワの街角にいるジャムーと呼ばれる伝統調合薬を売る人として描画。彼女たちは風邪の予防をしたいとか、喉が痛いなどといった客の要望に見合った薬を調合してくれる。

41. 遊女ヴァスミトラー。離欲の究極を求めた菩薩の解脱を会得した善知識。その一挙手一投足、抱擁や接吻によって人々を愛欲から離れさせることができる。

42. 観音菩薩。宝石からなる木立や森林、花々が撒き敷かれた園におり、無垢の光の散乱で飾られた手をスダナの頭の上に置く。

- 天女。

- マハデウァ神。海から水を汲んで顔を洗う。

45. 大地の女神スターヴァラー。大地の振動とともに身体は電光の帯を空に掛けるように閃き、木の芽は萌え出で、花は咲き、河は流れ、大雨が降り、大風が吹く。

- 夜の女神たち。

第一の夜の女神：道行く人の妨げを取り除くため、あらゆる姿になって衆生を導く。

第二の夜の女神：静寂な禅定をあまねく歩行する。

第三の夜の女神：毛穴から色々な色の雲を出す。

第四の夜の女神：白毫から全方向に光を放つ。

第五の夜の女神：清らかな海の輝き。

第六の夜の女神：夜の女神たちに囲まれており、全衆生に対応する身体を持つ。

第七の夜の女神：サンゴの芽でできた玉座に座っている。

第八の夜の女神：周辺も中央もない色彩の海の広大な崇高さを示す。スダナは五体投地したまま長い時間を過ごす。

- 第五層に進むスダナ

第五層：華嚴経入法界品第三層

48. ルンビニーの森の女神。如来誕生の前兆として、あらゆる衆生とガルードなどの神々の子が集まる。

49. シャカ族の娘ゴーバー。輪廻の快楽を全て捨て去った心の持ち主。

50. 釈迦の母マヤ。姿のようだが姿ではない姿をしている。

51. 天の娘スレンドラバ。如来に使えてきた娘で、ガンジス川の砂について話す。

52. 長者の子シルパービジュニャ。字母表を読誦する際、一音ずつ悟入する。六波羅蜜寺の空也上人像と重ねた。

53. シュリーサンバヴァ童子とシュリーマティ童女。ここでは海の彼方から現世を訪ねてくる一對の来訪神として描画した。

54. 釈迦の愛馬カンタカにスダナを示して讀える弥勒菩薩。

55. 文殊菩薩と普賢菩薩に祝福されるスダナ。

56. 善財童子の死。

第六～九層

57. 生きものの一生。

Explanation of the single parts of “Borobudur”

Just like the image that is preserved at the actual remains of Borobudur, the painting consists of a total of nine layers.

Layer 1: Hell

Inspired by the depictions of evil human actions in parts of the first layer of the original relief of Borobudur, the painting contains depictions of violence in the present world.

Layer 2: Jataka tales (Honsho-tan)

Illustrating the reincarnation of Gautama Buddha

Layers 3 – 5: Gandavyuha Sutra

Depicting the story of Sudhana’s journey in search of enlightenment, as advised by Manjushri Bodhisattva.

Layers 6 – 9: The Life of a Creature

With some exceptions, the upper layer of the image at the actual remains of Borobudur consists of geometric, three-dimensional mandala devoid of concrete shapes. Toward the top of the image, these depictions are getting more and more abstract. The painting illustrates the life of a creature – human or animal – from birth to death, to the point where it turns into energy that circulates on the Earth.

Explanations of individual scenes

Layer 1: Hell

1. Disasters involving children
2. Comfort women in Asia

Based on a reversed version of a photograph taken by the Allied Forces of comfort women that were discovered on the Korean Peninsula. The two women whose heads are not covered represent former Korean and Dutch comfort women, whose situation has been widely documented through various activities, while those with their head covered represent former comfort women in Indonesia and other parts of Asia, which receive little attention in Japan. The kimono-dressed figure on the far left is a Japanese comfort woman – another group that is certainly still rather unknown.

3. Ducks

While I’m not sure whether this is true or not, my teacher at elementary school once said the following on the topic of bullying. “It happens that the weakest in a flock of ducks that are kept together is killed by drowning. Then, once the weakest one is dead, they look for the weakest one remaining, and do the same bullying over again.

4. Men dragging a woman they have made drunk or put in a state of trance with the aim to rape her, and another one who walks by watching.

5. Mezu

A horse-headed executioner of Hell. It carries a Pecut, a type of lash used in Javanese traditional Jathilan and Jaranan dance, as a tool for controlling spirits that possess humans. When cracking the whip, it makes a sound that cuts the air like a firecracker.

6. Children fighting over a stuffed toy

7. Battling crocodiles

8. Chimpanzee spreading its cub’s legs

This is a scenery that I remember whenever I think about the fundamental reasons that cause humans to fight each other.

9. A-bomb victims

10. Orangutan watching a burning tree, and a furious elephant that runs away from it.

The tropical rainforest, the habitat of orangutans, is increasingly cleared through arson and commercial logging, to be recultivated as farmland for

palms etc. The timber gained from these trees is used for making concrete molds, while the vegetable oil is used in the production of instant noodles, which means that these things are deeply linked also to the daily lives of us Japanese. There have been news recently about raging elephants in human settlements, as a result of their habitat being taken away by humans.

11. US soldier falling victim to the A-bomb in Hiroshima

Even though it has been attested that at least thirteen US soldiers fell victim to the atomic bomb, which was dropped by their own army, in order to justify the possession of nuclear weapons, the US government continued to explain up to 1983 that the atomic bomb did not affect any US citizens.

12. Victims of air raids

13. People exchanging hateful posts on smartphones.

14. Gautama Buddha and a gozu, (bull-headed executioner of Hell) conversing while watching scenes in Hell.

15. Japanese military policemen abusing an Indonesian man

Based on the painting “Praktek Penjikusaan oleh Tentara Jepang (Torture Practices of the Japanese Army)” by Lee Man Fong (1945, OHD Museum)

16. Fighting animals

17. Person helping another person with weak legs

Inspired by impressions from Indonesia, witnessing how people quite naturally offer help whenever they see someone in trouble.

Layer 2: Jataka tales

18. Monkey blocking up the eyes of a buffalo

The buffalo, being patient with the monkey that kept playing pranks on it, is in fact Gautama Buddha in his previous incarnation. When the monkey tried the same pranks on another buffalo later, it was killed by its horns.

19. Rabbit sacrificing itself as food for a hermit

A jackal, an otter, a monkey and a hare, together known as the four wise creatures of the forest, go out to look for something they can offer to Sakra, who appears in the form of a Brahman. While the jackal, the otter and the monkey each bring meat, fish and fruit, the rabbit didn’t find anything. It asks the Brahman to make a fire, and eventually throws itself into the flames as an offering. In the Jakata tales, the fire that Sakra makes using his divine powers, does not burn the rabbit, but Sakra, impressed by its action, carves an image of the rabbit into the surface of the Moon instead. Tezuka Osamu’s “Buddha” includes a tragic scene in which the rabbit is actually burned, and that scene has been engraved so deeply into my memory that I chose to depict it here.

20. Self-sacrifice to a tiger

Known from depictions on the Tamamushi Shrine, this is the story of a prince who witnesses a mother tiger that is so hungry that it is about to eat its own cub, and offers his own flesh for the tigers to eat. The prince is Gautama Buddha in his previous incarnation.

21. Sheep appearing in front of a hungry wolf

Unable to find prey due to heavy rain, a wolf decides to abstain from food. When a sheep appears, the wolf reverses its decision and starts hunting, however the sheep escapes, and the wolf has to start fasting again. That is when a voice from above reproves the wolf for fasting and quitting again according to its own convenience. The sheep is Gautama Buddha in his previous incarnation, and an incarnation of Sakra.

22. A mother monkey using its body as a bridge for its babies to escape from a burning tree.

23. Sessen Doji

Sessen Doji, a previous incarnation of Gautama Buddha, in conversation

with a rakshasa, an incarnation of Sakra. The rakshasa depicted here is modeled on a Batara Kala figure from the Javanese wayang shadow play. Being Shiva’s child, and a man-eating demon, the rakshasa is at once also god of sorts that educate and warn humans.

24. Bird flying into a lion’s mouth

Actually a story about Gautama Buddha in his previous incarnation as a woodpecker that removes a bone stuck in a lion’s throat, I misunderstood this from the relief at Borobudur, and depicted it like a self-sacrifice kind of act.

25. Nigrodha, king of the deer

The king of the deer steps up and offers himself to be shot instead of a pregnant doe, whose turn has come to serve as prey in the king’s hunt.

26. A spirit on the back of an elephant is reborn while walking through a gate.

Layer 3: Gandavyuha Sutra (first layer)

27. Sudhana and Manjushri Bodhisattva. Impressed by the sermon of Manjushri Bodhisattva, Sudhana embarks on his journey while regretting parting with the Bodhisattva who advised him to go and meet 53 “wise advisors.” According to the original relief at Borobudur, Sudhana is a young man in his late teens, but I decided to paint him as a child, according to Kaikei’s and similar depictions of him in East Asian Buddhist art.

28. Meghashri from Mt. Sugriva.

29. A large lotus flower appears out of the sea that Sagaramegha from Sagaramukha gazes at.

30. Supratishthita from Lanka Island walks in the sky.

31. The hermit Megha from Vajrapura blesses Sudhana while wrapping him in a precious cloth.

32. A girl goes around the houses, singing while playing a simple instrument made from a piece of wood with multiple bottle caps attached to it, to collect money. During my stay in Yogyakarta, such people sometimes came to my house. The citizens don’t hesitate to donate money or water, which is probably also related to the fact that they are Muslims who are used to such kind of charity.

33. Kinnara, or Kinnari

34. Garuda

35. Indriyeshvara plays with sand while surrounded by other children.

36. Prabhuta, a laywoman from Samudrapratishthana. A neat and clean young adolescent, she diffuses a type of fragrance in the streets that kills hostile feelings. She takes food and other things from her jar, to feed not only humans, but also dragons and deities.

37. King Anala, a young and handsome man with the ability to judge people unerringly. Ghastly corpses of criminals pile up at his execution site, but according to King Anala, they are only phantoms that he projects using his divine powers. By displaying them, he wants to encourage people to live earnestly.

38. Sudhana ascends to the fourth layer

Layer 4: Gandavyuha Sutra (second layer)

39. King Mahaprabha is worshipped by everything from animals to plants. Here the water forms a torrent that gushes toward the king.

40. The perfume merchant Utpalabhuti. In the original text, he is one of the wise advisors who cures people’s hearts with fragrance, or works miracles. Here I depicted him as vendor of Jamu, a traditional herbal medicine, on a street corner in Java. They mix appropriate medicines in response to customers who want something that prevents a cold or that cures a sore throat.

41. The prostitute Vasumitra, a wise advisor who attained enlightenment of emancipation from a bodhisattva who pursued extreme abstinence. With her every action, including hugs and kisses, she can take away people’s appetite for love.

42. Avalokiteshvara stands in a garden with scattered flowers and trees made of jewels, and puts his hand, ornamented with rays of innocent light, on Sudhana’s head.

43. Heavenly maiden.

44. The god Mahadeva, taking water from the sea to wash his face.

45. Sthavara, the goddess of the earth. Together with the vibrations of the earth, her body shines like a belt of electric light into the sky, making the trees sprout, flowers bloom, rivers flow, heavy rains fall, and strong winds blow.

46. Goddesses of the night.

First goddess of the night: Appears in various forms, to guide people while removing obstacles from their paths.

Second goddess of the night: Walks far and wide in quiet meditative concentration.

Third goddess of the night: Emits clouds of various colors from the pores of her skin.

Fourth goddess of the night: Irradiates light in all directions from her whorl of white hair.

Fifth goddess of the night: The pure sparkle of the sea.

Sixth goddess of the night: Surrounded by the goddesses of the night, she possesses a body that corresponds with all living beings.

Seventh goddess of the night: Sits on a throne made from coral buds.

Eighth goddess of the night: Reflects the vast sublimity of a sea of light with no periphery and no center.

Sudhana remains in the position of prostration for an extended period of time.

47. Sudhana advancing to the fifth layer

Layer 5: Gandavyuha Sutra (third layer)

48. The goddess of the forest of Lumbini. In anticipation of the birth of Buddha, she gathers all sorts of creatures, and children of gods such as Garuda around her.

49. Gopa, a girl belonging to an ethnic group called Shaka. Owner of a heart that dismisses all pleasures of metempsychosis.

50. Maya, the mother of Gautama Buddha. While looking human-like, her appearance is not defined by a concrete shape.

51. Surendrabha, the daughter of the sky. A girl that has been serving Buddha, she talks about the sand of the Ganges River.

52. Shilpabhijna. When reading down a chart of syllables, he attains enlightenment with every single letter he pronounces. I combined the image with that of the statue of Saint Kuya at the Rokuharamitsuji temple.

53. Shrisambhava and Shrimati. Here the two are depicted as a pair of gods that come to visit this world from across the sea.

54. Maitreya Bodhisattva praises Sudhana while showing him to Buddha’s beloved horse Kanthaka.

55. Sudhana receives a blessing from Manjushri Bodhisattva and Samantabhadra.

56. Sudhana dies.

Layers 6 – 9

57. The Life of a creature